日本プロレタリア音楽家同盟
東京支部
ニュース

一九三三・二・四
東京市淀橋区上落合一〇四八
日本プロレタリア音楽家同盟
東京支部　発行

東京支部は第三次革命競争を如何に斗ふか

コップは、戦争と革命の才二の周期を前にして、プロレタリアートの多数者獲得の要求に従ひ之に答へるため、才三次革命競争を指令した。

主要目標は、

一、戦争と絶対主義に対する斗争、その文化に於ける反動的攻撃の撃破、その影響から浪況な大衆を吾々の側へ引きよせるボルシェビキ的大衆活動の展開

二、農村に於ける文化活動の積極的展開

三、急進的自由主義的同伴者の内に吾々の影響を浸透しプロレタリアートの味方に引きよせる。

四、これらの斗争を通じて同盟並にサークルの活動家及び革命的作家を結合し補助組織としての意義を強化すること。

「同盟員獲得！」

この革命競争は、吾々の才一次、才二次革命競争の成果の上に築かれるものである。才一次、才二次の成果とは何か。吾々は多くを語ることが出来ない。唯全般的な政治的な関心の高まり、創作的技術の若干の高まりとは云へるであらう。

だが同盟並びにサークルの組織状態は過去半ケ年の間に退歩さへした。何故の退歩であるか。この点を充分見極め才三次革命競争の斗争を通じてこれを克服し前進することこそ重要である。

我々の自己批判は才一に音楽活動の当面の主要な環をとらへ得ず、具体的同盟の実際の状態を引き上げる計画を立て得なかった。吾々は目標を正確に把握すると共に、吾々の実際の足元を見極める必要がある。この点に付いて言ふなら同盟員一般の状態は政治的、理論的に著しく低く当面の階級的一般的課題に対してすらも、理解は極めて不足している。故に教育活動の強化といふことが、ここから結論される。教育活動は一般に強化されるのみならず、特に新同盟員の教育、企業労働者を含めての幹部養成の特別教育に力が注がれねばならない。あわせて特にコップ機関誌「プロレタリア文化」を全員が読まねばならない。

才二に組織活動に付いて云へば、我々はサークルから新しい同盟員を充分に獲得し、[illegible]ての教育をほどこす代りに、今日の少数の同盟員が彼らに組織活動の無意識的な忙がしさに追はれて、結果同盟の全体的発展、新しい組織的拡大の代りに、ひ弱な組織的減退が来た。加ふるに指導部の一部にある形式的な組織的理想論がかかる実際の弱さから全体の注意を引きはなした。

問題は、如何に少数の弱い活動力な実際の下から、（企業労働者の）要求に効果的に結合するかと言ふことである。この点から言ふならばかかる下からの音楽的欲求に対する革命的音楽の大衆化（楽譜、歌曲集、歌ひ方、ハモニカの吹き方、譜の読み方等の出版による大衆化）に依って答へられねばならない。これに合せて移動的活動の強化、サークル組織の計画的結合がなされるならば過去の失敗は容易に克服されるだらう。

才三に創造的演奏技術の高揚、合唱体オーケストラ、ハーモバンドの独自的結成と強化、それは特定の階級的（政治的）目標にもとづく演奏会の具体的遂行に結びつけられねばならない。合せて同伴者音楽家より技術家を引きよせる事は、最も計画的になされねばならない。

これらの全活動を組織しその最高の理解を全同盟員のものとするには機関誌の発行と強化とが欠くべからざるものである。

コップ並びに本部が指令した革競の具体的目標は、

一、サークル数及びサークル員数
二、同盟員数
三、出版物配布数
四、出版基金募集額

等は只以上の我々の現実の課題の実現を通じてのみ具体化され得る。

才三次革命競争の勝利的達成に努力せよ

班結成へ！

昨年暮、吾々の研究会其他一切の集会が合法性を失って以来、全支部同盟員が同盟の全活動に直接参加し、生々とした下からの意見を反映する機会を失って以来、全同盟員、特に新らしい同盟員の間に之に代る研究が要望された。

九月組織部に依ってサークルを基礎としてサークル内同盟員と共に地域に応じて同盟員を配属し、班を結成し、之と平行して地区組織確立の努力をなし、之に依り、全同盟員を組織活動に参加させ、サークルの指導を強力に展開する方針が決議された。併しながら吾々の組織は依然として進展しなかった。

吾等は、之を一応次の様に自己批判した。

この方針が全同盟員に（組織部の一部にさへ）徹底しなかった故もあるが、根本的には、班結成地区組織確立の理想論を機械的にやり始めた点にある。現在のやり方はその必要はないか、むしろ之はかへって力を分散し、弱めるものだ。全同盟員を若干の研究会グループに分ち、同時に出版活動、技術部面の強化が当面の急務である。と。

併しこの自己批判も若干のグループを単に研究会グループに止めた点に於て不充分であった。特に地区委員会に依って指導される地区組織のない班は考へられない。と考へた点、に於て機械的であった。

特に現在吾々が当面してゐる緊急なる状勢の下部組織を強化し全同盟員を一切の活動に参加させることは絶対に必要である。即ちこれらの研究会グループをはっきり班として結成し、直接支部役員の指導の下に、組織・教育・財政の諸活動を強力に展開すべきである。併して班は地区、技術面を基礎として結成されるべきである。

当面の班の活動方針は次の如くである。

＊才三次革命競争のプラン設定、及び即時之の実行
＊出版基金募集、同盟に完納！！
＊特高技術部への積極的参加！！
＊機関誌及びコップ出版物の読者獲得！！

二頁へ

才三次革命競争プラン

	サークル数	サークル員	同盟員数	出版物 音楽新聞	出版物 文化	出版物 婦人	出版物 友	出版物 [illegible]	出版基金
十二・五出版現在	五	三一	六七	〇	七	七	〇	〇	〇
三・五中間ゴール	一七	一五六	九〇	一〇〇	四〇	二〇	二〇	二〇	三五円
五・一ゴール	三五	三二〇	一三〇	三〇〇	一〇〇	四〇	五〇	七〇	七〇円

創作プラン

◎失業のためにシュテムペル・リート（失業斗争歌）
　Hアイスラー作の飜訳

◎マルクス・デーの為　斗争歌（あらゆる出版物に掲載全日的に流布する）
　小歌劇（移動演劇用）[illegible]

◎演奏会のため「鐘が鳴れば」パラフレズ（オーケストラ）
　指名者　吉原

◎メーデー公演の為　小歌劇ー　小オーケストラー
　合唱曲一、独唱曲三、[illegible]

支部報告★★★

組織活動

今迄のサークル中心に班結成、地区組織確立の機械主義的方針が改められて（「班結成へ！」の項参照）新に全同盟員を八つの班に組織し新なる活動を展開せんとしてゐる

サークル増加数なし　章竟プラン別記の通り

教育活動

一月中旬「新同盟員及び同盟加入希望者の為の短期講習会をなした。

第一日　音楽家同盟の組織と現在の方針　擔当者　赤松　参加者七名

第二日　プロレタリア音楽及びプロレタリア音楽運動　擔当者　京　参加者四名

第三日　歌（インターナショナル、憎しみのるつぼ、青い花　青年の歌、海山越えた）　擔当者　新島　参加者四名

第一日、第三日共に擔当者の用意不充分の為成功的でなかった。と同時に吾々は基本的理論の理解の不充分さを痛感した。

動員の点に於ける不充分を次の如く自己批判した。

一、三しを中心として行ふため非常に注意した関係上公然と多く募集め得なかったこと。一部のメンバーはそのため不安を感じた

一、会場の交通不便

一、三日間を通じて非常に寒かった（一日は大雨）

この研究会を通じて二名の同盟員を得た。今后かゝる計畫はしばしば行はれるだろう

このこと以外には「前の三・一斗争」「一月からの議会斗争（志ぼ二千二億の膨大な軍事予算の偽瞞的懸引をやる）」等に対して同盟員及びサークル員に対して何らの教育的活動をなさなかった。このことは如何なる理由にしろ（手不足、本部教育部無活動）教育部の大きな怠まんである

財政活動

収入　一五[illegible]

内　毛月納[illegible]　[illegible]四円〇五セン

同盟[illegible]　大円〇五セン

支出　一三円六七セン

内、本部七　二円

三・一ス七　二円〇二セン

音楽會館　金送サ　五円〇〇セン

通信七　一円五六セン

交通七　五〇セン

雑七　二円五九セン

残高　一円五三銭

現在の同盟七納入状態　十二月現在

- 完納者　岡　西　吉岡　関　西田　高沢　亭島
- 十二月迄納者　西川、河野、近藤、八寺　宇田　若枝
- 十一月〃　斉藤（茂）山辺　九月迄　中田　武岡
- 八月迄　伊藤、吉川、大山　吉原
- 五月以上滞納者　京、八木、渋谷、高杉、峰、新島　南、浅井、秋山、吉間、内山、中野、土屋、永田、本
- 一ケ年滞納　大久保、今井、木下、北沢　他に会費一回も納めぬ者　室井、久富

移動活動

一月中の活動左の如し

申込件数　小集会一四　小公演二

出動回数　小集会一一　小公演一

出動中止数　都合で断ったもの　四件

全動員数　約五五〇名

出動メンバー及び回数

赤松　三回　秋山一回　大山六回　河野五回

土屋　七回　内藤一回　中野十回　新島四回

この中長屋合唱団が三度共同出演して居ることは注目に価する

右の統計に於ても明瞭な如く批較的頻繁なる出動回数に於て、出動メンバーが少数に一定され、しかもそれが平均に動員されてないこと、演奏曲目が多く計画的でなく、常に大部分の未組織大衆にしっくりせず、従って、その場の空気から浮はなれる傾向を多分に持った。その他集会の空気に溶けこみ之を引きづって行くべき吾々の態度の不充分、演奏に於けるヂェスチャの不足、曲目及び技術者の不足、宣傳基金募集の放棄、組織部との聯絡の不充分等種々の欠陥を指摘される。

これらは出動先に於ける大衆的要求（替歌、民謡、ユーモアに富んだ歌、器楽等の親しみ易い歌）と相俟って、慎重な対策を講ずる必要がある。この必要から移動部は委員会の決議に基き、次の方針を設定する。

一、全同盟員を広汎に平均に動員するため、目下の一手段として現在出動可能のメンバーを二班に編成し、十日間交代で仕に就かせる。

A班　中野、土屋　河野、　一日―十日

B〃　新島　大山　内藤　赤松　十一日―廿日

一、移動調査表を改作し、組織活動の貯水池の一つとする。

一、出動先の状勢を調査し、それに適した上演プランをつくり、練習して行くこと

一、移動公演に適した曲目を作製する必要から出動先から歌詞を募集すること、及び創作班との共力の下に創作活動を盛にする、その一端として流行歌の調査をなす。

一、宣傳、基金活動を旺盛にするため出版物、基金袋の持込を活潑に遂行する

一、他の友誼団体との共同練習を計画する。

合唱団

昨年十二月の結音楽会以来、しばらく沈滞していた合唱団の練習を再び元の様に盛り返すため、一月中旬に総会の召集をなしたが非常に出席悪く、今后の練習方針に対する充分な討論がなされなかった。

音楽会批判（支部ニュース三号）等から最近やっと技術問題に関して真剣な討論が捲きおこされやうとしてゐる。合唱団の今迄の練習方針についても、もっと吾々の技術問題に関聯して深く考へなければならない。練習が少しも面白くないと言ふことを、しばしば聞くが、何故面白くないかを追及して見れば、その根本的原因は吾々の各自の技術の差が余り甚だしい点にある。合唱練習に当ってそれらの人全部に適応したテキストを選ぶことも困難であるし、統一した練習方針が立得ない状態にあったのだ。従って吾々技術を殆んど進歩せしめることも出来なかったのだ。

我々は、何よりも速く、少しでも多くの技術を獲得するやうに努力しなければならない。最も合理的な方法として同じ位の高さの技術を持った者を以て二三のグループをつくり、それぞれに適応したテキストによって練習する案に結着した。そこで先づ積極的な学生を一つのグループに分けた。その他に突撃隊として一つのグループを作って、これを特別の練習を開始した。現在の所これらの人を除めば極く少数の者になるので全部を含んだ練習は今迄通りにすることにした。

大体以上の様な方針で再び熱心な練習が續けられてゐるが定期練習に来る者わずか四五人である。通知を受取っても返事もなく欠席する者が多い。合唱団は現在技術団体として支部の中心をなすものだ。積極的に部署を守って合唱団を強化せよ。

「班結成へ！」

（一頁より續き）

班分左の通り

各班では各々責任者を選出する。責任者は定期的に支部委員会にその活動を報告する。

城南一班　有津　和泉　森本　斉藤　内山　京

城南二班　[illegible]　藤沢　小島　峰

〃東班　奥村　島田　北見　斉藤　赤松　西川

〃北一班　山城　三木　谷村　井上　宮　京

城北二班　宮　他五名

城西一班　山本　徳永　大山　新島　吉田　河野　西川　近藤　室井　秋山　木本

城西二〃　吉川　渋谷　八木　中野　伊藤　土屋

城西三〃　伊藤　川端　内藤　時田　大槻　小笠

中部班　鴻巣　三好　内田　舟村　岩波　武岡　八寺

創作班

一月中の創作なし、

従来の班会が作品擔当の割当に了って居り、作品の精密な批判、創作方法の問題に対する撤底的な努力が班の活動として捲起らなかった。今后之等のこと活潑にやって行く事が申合された。先づその為に班会の持方を(A)作曲家グループ(B)詩人グループに分ち、隔週に合同班会を持つ事とした。各々直ちに近作の批判をはぢめる事となった。

華竟期間制作プランは別記（一頁）の通り

ハーモニカ団・オーケストラ班

ハーモニカ団では音楽会後、全員の合奏練習をなすべく努力したが未だ成功してゐない。併し移動活動には二三のメンバーが積極的に活動してゐる。オーケストラ班は全く無活動状態だ。三月の音楽会を前にしてこれらは至急強力な活動を展開しなければならない。

P.M.

ロシア革命十五週年紀念
コップ結成一週年紀念 第五回 音楽会
報告及び、その自己批判

十二月十一日、昼夜二回、吾々は、第五回音楽会を、ロシア革命十五週年紀念、コップ結成一週年紀念の[illegible]的斗争として、新地小劇場に開催した。

この音楽会は、上述の意義を有すると共に、又吾々にとって、春以来の技術的、組織的力を全面的に示す斗争として、最后に、最近の組織活動の発展に飛躍する大きなモメントとして、大いなる意義を有した。

この音楽会を全面的に見るならば、その個々の面に報告される如く、成功的遂行とは言へない。併しながら、吾々がその準備期間中に当面した未曽有の困難（その間、約十名の中心的メンバーが検束、拘留された）に抗して、不完全ながらその開催を斗ひ取った点、この音楽会を通じて数名の同盟員を獲得し得た点、これによって多くの教訓を学び得た点に、特に注目しなければならぬ。

又かゝる困難の中に、終止中心となって積極的に働いた、同志河野、同志赤松、及び合唱団の總ての委員の無き後、新しい責任者として、涙ぐましい働きをなした同志西川の仕事は、特に高く評価さるべきである。

この音楽会に付いての財政、当日の動員について報告すれば、

収入総額 六三円九三戋
内訳
五二円四五戋 入場料（含未回収前売券）
一一円四八戋 音楽会基金

支出総額 九四円六七銭
内訳
七〇円 〇戋 劇場借代（内未払 二五円八五戋）
一五円四六戋 宣伝費
六円五六戋 消ヒ組合払（食ヒ）
二円六五戋 プログラム其他当日雑ピ

差引欠損 三〇円七四戋

動員数合計 二二七名 内労仂者 七一％
内訳
昼 七一名 一般八、学生一九、労仂者三八、招待六
夜 一五六名 一般六、学生一八、労仂者一二二、招待一〇
計 一般一四、学生三七、労仂者一六〇、招待一六

自己批判

先づ第一に実行委員会の無活動を挙げねばならぬ。

十一月上旬音楽会の開催が決定されると同時に、実行委員会が構成され、直ちに特別ニュースを出して全同盟員にアッピールした。が併し、それ以後、期日の切迫と共に、最近の同盟の力の弱まりの具体的現れである所の、メンバーの不足、技術の低下、レパートリーの不足等からくる困惑に対し、特に十二月四日、同志岩田義道の労農葬当日、数名の中心メンバーが豫備検束されて、絶対的気分が一部が支配した時に於てさへ、何ら具体的指導をなさなかった。

以下報告される諸欠点に対し、それらは皆日常の具体的現れとは言へ、実行委員会は、充分責任を負ふべきである。

先づ技術の低さから来る諸点について、一部の聴衆（特に技術家）の間にプロレタリア音楽に対する誤解を生んだ。（今日始ったことではないが）これらが、いかに吾々の運動の発展をさまたげるかは『東京支部活動報告』の中に既に報告された。

一方、この同じ原因が、労仂者の間にも誤解を生んだ。即ち、まづい演奏から来る内容の不鮮明さは、（これらは特に大曲に現れた）一部の労仂者に次の如く言はしめてゐる。

『俺達は、解りやすい歌が聞きたいんだ。団結の力みたいな、元気なきっぱりした歌がいゝ。』

この言葉は、多くの考へるべき点を含んでゐるが、吾々は大曲の価値をま身を以て示さなければならない。

以上の如く、低い技術が、あらゆる面に於て、P.M.の運動をさまたげてゐるかも十二分に知らねばならない。

『いそがしくて練習に出されない』と弁明する、P.M.の活動家達は、之に依って、練習の不成績（全員の）、技術の低下、組織の進展の妨害の一原因を、自らつくるものである。

曲目の二、三に付いて言へば、

『十月への道』之はソ同盟で作曲されたもので、幾多の苦難な斗争をへて、終に輝かしい革命の達成をかち得た、ソ同盟の労仂者の胸をせまる思出を歌った一聯の歌謡集の最初の三分の一である。合唱の主要部分を占めたものであったが、後半の、革命の達成への高まりを全然かいだことと、例によって、技術の不満足は、吾々の意図を充分表現し得なかった。

『おいらの春』同志中野によって編曲されたこの曲は、ハーモニカ班独自の創作によって大曲として、技術的に不充分の表現しか得られなかったが、注目すべきものであらう。

プログラム中特に注目をひいたのは『長屋合唱団』の出演である。これは城北労仂者クラブに育った、労仂者の自立音楽団である。『芝浦』『鐘がなれば』の二曲を歌ったのであるが、その元気に満ちた歌は、満堂の拍手をあびた。労仂者自立音楽団の発展は、多くの問題を具体的に吾々に提示する。

此後の発展を待望してやまない。

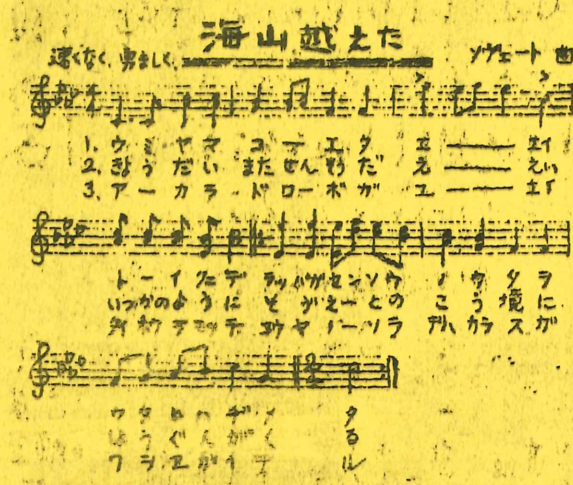
組織・宣伝活動、実行委員会の結成と同時に、その中に設けられた宣伝係は直ちに積極的活動にうつった。他部内の不活溌から来る仕事のちたいを自ら背負ひながら。四日の検束のやくに屈せず（三名中一名は、終に音楽会に出席なかった）。

加ふるに財政難、メンバーの他との重複、他同盟員は組織部との共力のまづさ等から、動員の点に、成功してゐない。

併かゝる状態の中に活動した宣伝係としては、やむを得なかったものと批判されてゐる。

組織部は、一部のメンバーの活動以外に、実質的には何らの組織的活動をもなさなかった。がこの音楽会を通じて、若干の新同盟員及び同盟加入希望者を得た点、わづかながら移動活動に影響をあたへた点等、これの組織的意義を見る。

最后に、この音楽会を通じて、支配階級の増々露骨な攻撃を見る。熟慮の上提出された歌の三分の一を使ひ、可能なものも、重要部分は、ほとんど削除された。尚この期間中約十名（福田、高杉、朴、浅上当時拘留中）山本、新島、大山、木下、武岡、赤松米本、西川）のメンバーが検束、拘留された。この攻撃の階級的意味をはっきり見、之に向はねばならぬ



海山越えた

四、
敵と戦ふのは
エーーエイ
はぢめてぢやない
吾らは、労仂者の
敵をおいちらす

五、
俺らは弾雨の下で
エーーエイ
勇ましく、
ソヴェートを守り
労仂を守る。

六、
聞け、ラッパがきこえる
エーーエイ
戦争の歌だ。
海山こえた遠い国で

新同盟員 氏名

左記は、十一月、十二月中に新に同盟員となった諸君である。吾々は諸君の今後の活動を期待する。

（ ）中は、所属

山城（城北、ハーモニカ）
船村（ハーモニカ） 宮沢（合唱）
小野（合唱） 品川（合唱）
内田（オーケストラ） 三浦（合唱）
高島（中部）

活動基金二〇〇円募集！

出版活動は刻下の急務である。唯一の出版物、音新は主に財政難のため発行停止の状態であって、又同盟は、唯一の歌曲集をも持たぬ。

出版活動をおう盛にし、広般な大衆の要求に答へ、以て、吾々の「多数者獲得」の任務を、効果的に果たすため、五月迄に活動基金二〇〇円募集（内東京支部割当一二〇円）が常中委で決定された。財政部を先頭として、全員この活動に参加しろ！